

環境・社会報告書

2025

2024年4月1日～2025年3月31日

(一部期間外の情報を含みます)



高砂工業所

目次

高砂工業所概要	1
主な生産品目	1, 2
カネカ生分解性バイオポリマー Green Planet®	3, 4, 5
1. 安全衛生方針	6
2. 環境方針	7
3. 環境マネジメントシステム	8
(1) 環境マネジメントシステム組織	
(2) 監査・審査	
・ ISO14001 審査	
・ 環境安全内部監査	
・ ESG 安全・品質査察	
4. 環境負荷に対する監視測定	9, 10
(1) 大気・水質関係	
(2) 騒音・悪臭関係	
(3) 環境負荷量と汚染防止（大気汚染防止、水質汚濁防止）	
5. 化学物質の適正管理と排出量低減	11, 12
(1) 化学物質排出量の適正管理	
(2) 有害大気汚染物質排出量 自主削減計画	
(3) フロン排出量削減対策	
6. 産業廃棄物の管理	13
7. 環境会計	13
8. 労働安全衛生・保安防災	14
・ 防災訓練	
・ 消火技能向上訓練	
9. 地域とのコミュニケーション	15, 16, 17
・ 環境月間地域清掃活動	
・ 各種イベント開催	
さつま芋の収穫	
ケーキ教室（夢化学）	
環境学習	
・ トライやる・ウィーク	
・ カネカみらいの森づくり	
10. 輸送時の化学物質管理と教育訓練	18
株式会社カネカ 高砂工業所 案内図	19

高砂工業所の概要

所在地	兵庫県高砂市高砂町宮前町 1-8
電話	079-445-2500(代)
敷地面積	約 127 万m ² (西工場含む)
工業所長	落合 計夫
従業員数	1,441 名(2025 年 3 月現在)
工場出荷額	約 1,987 億円(2024 年度)
設立	1949 年(昭和 24 年)9 月 1 日
環境マネジメントシステム	ISO14001(2000 年)認証取得
労働安全衛生マネジメントシステム	OSHMS(2008 年)認定取得

主な生產品目

高砂工業所は、株式会社カネカの国内主力工場です。製造している多くは、中間製品ですが、化成品、合成樹脂、食品、医薬品、機能性食品、合成繊維という幅広い分野で製品の製造、出荷を行っています。

製品	主な製品使用例(最終製品)
苛性ソーダ	一般工業用、中和剤など
塩酸	
次亜塩素酸ソーダ	水道用消毒剤、漂白剤など
塩化ビニル樹脂「カネビニール®」	建材、電線・ケーブル、レザー・シート、産業資材、ライフライン、梱包など
塩ビペースト樹脂「カネビニール®ペースト」	壁紙、床材、カーペット、電気部品、自動車部品、各種レザーなど
強化剤用樹脂「カネエース®B」	建材、パイプ、ボトル、包材など
変成シリコーンポリマー「カネカ MS ポリマー®」	建築用シーリング材
アクリルシリコン系ポリマー「ゼムラック®」	塗料、コーティング剤
液状硬化性樹脂用改質剤「カネエース®MX」	自動車の構造接着剤、航空機の炭素繊維複合材
ビーズ法発泡性ポリスチレン「カネパール®」	断熱建材、緩衝包装材、魚函など
頭髮装飾用繊維「KANEKALON®」	ヘアウィッグ、エクステンションなど
エコファー用繊維「KANE CARON®」	エコファー
難燃・資材用繊維「カネカロン®」「プロテックス®」	作業服、ホームテキスタイル、産業資材など
マーガリン類	パン・菓子
ショートニング	
チョコレート用油脂「ベルコ®」	
ホイップクリーム「ラシェンテ®」	
パン酵母(イースト)	ストロー、レジ袋、カトラリーなど
カネカ生分解性バイオポリマー Green Planet®	
機能性食品素材「カネカ QH(還元型コエンザイムQ10)」	



苛性ソーダ



カネビニール®



カネパール®



マーガリン類



イースト



カネカ QH（還元型コエンザイム Q10）



KANEKALON®・KANECARON®(カネカロン®) カネカ生分解性バイオポリマー Green Planet®

カネカ生分解性バイオポリマー Green Planet®

●スターバックス コーヒー ジャパン 株式会社のストローに採用

スターバックス コーヒー ジャパン 株式会社（以下「スターバックス」）が展開する日本国内のスターバックス店舗で使用しているストローに株式会社カネカ（以下「カネカ」）の「カネカ生分解性バイオポリマー Green Planet®」（以下、Green Planet）が採用されました。

2025 年 4 月よりスターバックス コーヒー 全国の店舗で、レギュラー・太い径のストロー共に紙製から「生分解性バイオポリマー Green Planet®」製に変更されています。

Green Planet は、石油資源に依存せず、環境にやさしいソリューションを提供したいという思いを原点に当社が開発した 100%バイオマス由来の生分解性バイオポリマーです。土壌中に加え海水中に生息している微生物により CO₂ と水に生分解（※1）されるため、プラスチック環境汚染問題の解決に貢献しています。

今後も Green Planet の普及を通じて、サステナブルな社会の実現に取り組んでまいります。

※1 土壌や海水中の温度、海流の有無等実際の暴露環境や条件によって、生分解の可否や速度は異なります。



スターバックスのアイスビバレッジに使用するストロー



●大阪・関西万博で日本の最先端技術として Green Planet の

魅力発信

株式会社カネカは、大阪・関西万博「日本政府館（日本館）」において、Green Planet を用いた展示に協力しています。日本館は、いのちをつなぐ「循環」に着目した展示を行っており、Green Planet 製の器が水槽内で微生物により分解され、CO₂と水に戻っていくイメージが展示されています。

この出展を通して、より多くの方々に Green Planet の取り組みを見学、体験してもらい、資源循環がもたらす「いのち輝く未来社会のデザイン」に貢献していきます。



提供：経済産業省

微生物によって分解される Green Planet 製の器を、5 段階の分解過程に分けて水槽で展示

● 学研まんが「SDGsのひみつ 海の豊かさを守ろう」を

株式会社 Gakken と共同制作

株式会社カネカは、Green Planet を題材に、小学生向けとして「学研 まんがでよくわかるシリーズ特別編 SDGsのひみつ⑭ 海の豊かさを守ろう」を株式会社 Gakken と共同制作しました。

本書は SDGs14 の目標に関し、未来を担う子どもたちに SDGs 貢献の重要性を伝えるとともに、Green Planet の開発や取り組みを紹介することで、海洋資源の保全と持続可能な利用について理解を深めてもらうことを目的に作成し、全国の小学校・公立図書館・児童館などへ合計 24,000 部を寄贈しています。

教育という観点から、児童が環境問題に対して意識を高め、サステナブルな生活を主体的に送るきっかけを生み出してまいります。



学研まんが「SDGsのひみつ⑭海の豊かさを守ろう」「学研まんがでよくわかるシリーズ」の特別編

1. 安全衛生方針

2007 年に中央労働災害防止協会^{*1}より JISHA 方式^{*2}の OSHMS 基準^{*3}（適格基準）の認定登録を受け、以下の「高砂工業所安全衛生方針」に基づき安全衛生及び保安管理水準の継続的向上を図っています。カネカグループでは、安全を経営の最優先課題と位置付け、社員の安全・安心を守る工場づくりを推進しています。

^{*1} 労働災害防止団体法に基づき、1964 年(昭和 39 年)に設立された団体。略称は中災防

^{*2} 国際的にも通用する日本企業に適した認定基準

^{*3} 労働安全衛生水準が段階的に向上することを目的に運用されているか判断するための基準

高砂工業所 安全衛生方針

株式会社カネカは「人と、技術の創造的融合により未来を切り拓く価値を共創し、地球環境とゆたかな暮らしに貢献します」を企業理念としています。

また、E S G 憲章の中で「安全を経営の最重要課題と位置づけ、健全かつ安全な職場環境づくり、製品の安全性確保、地球環境の保護に取り組みます」と定めています。



高砂工業所は、これらの企業理念、ESG憲章に基づき、「全ての災害、事故は防止できる」との信念を持って、一人ひとりの真摯で前向きな努力を継続し、安全の確保、従業員の健康維持、快適な職場づくりの実現を図ります。

また、地域社会の安全・安心の確保に努めます。

- (1) 安全衛生マネジメントシステム及び保安管理システムを適切かつ効果的に運用し、各活動の継続的改善を進め、労働災害及びプロセス事故の防止を図ります。
- (2) 安全衛生及び保安管理に関する関係法令や会社及び工業所が定めた規程・基準などを確実に順守します。
- (3) 不具合の是正とリスクアセスメントの取組みを継続して職場の危険有害要因を排除します。
- (4) 作業環境改善、健康管理の強化、コミュニケーションの活発化などを進め、健康維持と快適な職場づくりを進めます。
- (5) 安全衛生方針、管理方針、目標などは、協力会社を含めた全従業員に周知徹底します。
- (6) この方針は外部からの要求に応じて提供します。

2019 年 4 月 1 日

株式会社 カネカ 高砂工業所
高砂工業所長 落 合 計 夫

2. 環境方針

2000年に環境管理の国際規格であるISO14001の認証登録を受け、以下の「高砂工業所環境方針」に基づき環境保全の継続的な取り組みを進めています。カネカグループでは、ESG経営への進化に取り組むべく、「ESG憲章」を2018年6月に制定しました。ESG憲章では、「カガクで世界の人々の人生と環境の進化に貢献し、価値あるソリューションをグローバルに提供します」、「一人ひとりの真摯で前向きな努力による企業理念の実現を通じて、社会的責任を果たします」と定めています。

高砂工業所 環境方針

株式会社カネカは「人と、技術の創造的融合により未来を切り開く価値を共創し、地球環境とゆたかな暮らしに貢献します」を企業理念としています。

また、ESG憲章の中で「価値あるソリューションをグローバルに提供することを通じて世界の人々の人生と環境の進化に貢献する」と定めています。



高砂工業所は、これらの企業理念、ESG憲章に基づき、その立地が、瀬戸内海国立公園播磨灘に面し、かつ、住宅地域に隣接していることを認識し、豊かで、美しく、住みやすい環境を目指し、環境保全活動を積極的に推進します。

- (1) 環境に配慮し、安心して使用できる製品の提供と製品開発から調達・生産・廃棄に至るすべての過程において環境影響を評価すると共に、社会的要請や地球環境を保護するために、環境負荷低減を行います。
- (2) 地球環境の保全や環境に関する法令、及び、環境保全協定等の組織が合意するその他の要求事項を遵守すると共に、自主的な基準を設定し、順守に努めます。
- (3) 環境目的・目標は定期的に見直しを行い、環境パフォーマンスの向上及び環境マネジメントシステムの継続的改善に努めます。
- (4) 環境方針は、当工業所及び関係会社・協力会社の全社員に教育、掲示等を実施し周知徹底します。
- (5) この環境方針は、すべてのステークホルダーに積極的に開示、提供します。

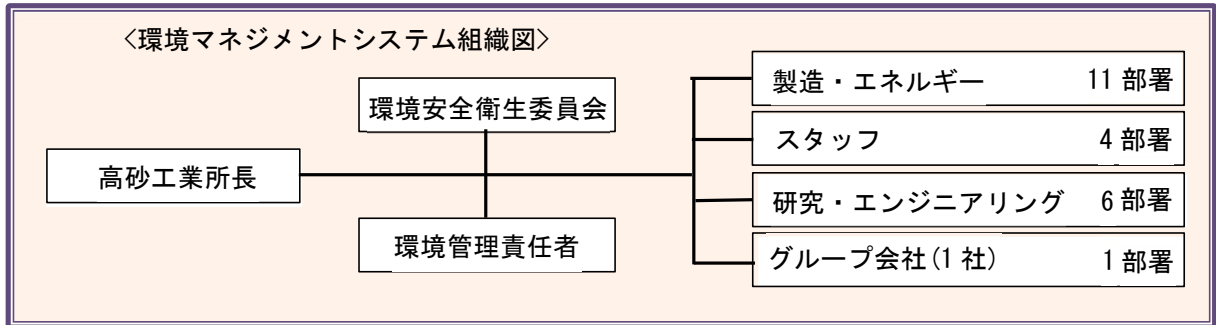
2019年4月1日

株式会社 カネカ 高砂工業所
高砂工業所長 落 合 計 夫

3. 環境マネジメントシステム

ISO14001 の規格に基づく環境マネジメントシステム組織により、高砂工業所で働く全ての従業員に対して ISO14001 の教育・訓練を行うとともに、環境保全の取り組みを効果的・効率的に推進しています。また、外部審査機関や社内の査察・監査組織による審査や査察・監査を受け改善を図っています。

(1) 環境マネジメントシステム組織



(2) 監査・査察

【第三者機関による ISO14001 の審査】

日本化学キューエイ（株）を第三者機関として毎年環境マネジメントシステムの審査を受けています。2024年度は10月29日～10月31日に維持審査を受審し、環境マネジメントシステムが適正に機能していることが認められました。



【環境安全内部監査】

社内資格の認定を受けた高砂工業所内の主任監査員、監査員が全部署を監査し、コンプライアンスの遵守状況などシステムが適正に機能していることを確認しています。製品づくりだけでなくお客様へのサービスを含めた点検を引き続き実施し、改善力向上に向けての取り組みを行いました。

【ESG (Environment Social Governance) 安全・品質査察（総合）】

「ESG 安全・品質査察」は、環境安全活動状況、品質マネジメント活動状況、化学物質管理状況、コンプライアンスなどの項目を加えた「総合査察」として毎年実施しており、法令遵守の確認及び労働安全衛生レベルなどの向上を図っています。



4. 環境負荷に対する監視測定

兵庫県及び高砂市と締結した環境保全協定に基づき、環境に著しい影響を及ぼす可能性がある大気汚染物質、水質汚濁物質の排出量及び騒音・振動の定期的な監視を行い、全ての項目で法律及び環境保全協定値以内であることを確認しています。

(1) 大気・水質関係

大気

施設名	測定項目	単位	測定点	測定頻度	法規制値(届出基準値 *1)	2024年度測定結果 (平均値)	*2 判定
5号 ボイラー	NOx	ppm		一回／月	210 (130)以下	42	○
	ばいじん	mg/Nm3		同上	180 (30)以下	3	○
7号 ボイラー	SOx	ppm	排出口	同上	— (80)以下	8	○
	NOx	ppm		同上	300 (165)以下	123	○
	ばいじん	mg/Nm3		同上	100 (50)以下	4	○
1号 コージェネ レーション	NOx	ppm	排出口	同上	70 (31)以下	12	○
	ばいじん	mg/Nm3		同上	50 (15)以下	1	○

水質

	測定項目	単位	測定点	測定頻度	届出基準値(通常値) *1	2024年度測定結果 (平均値)	*2 判定
工業所 No.1排水口	排水量	m3/日		常時	91,058以下	52,403	○
	pH			常時	5～9	5.9～7.5	○
	COD	mg/l	工業所 末端排水 ピット	毎日	19以下	12	○
	SS	mg/l		毎日	18以下	11	○
	油分	mg/l		毎日	3以下	1	○
	大腸菌群数	個/ml		一回／月	3,000以下	25	○
	全りん	mg/l		一回／週	0.65以下	0.22	○
	全窒素	mg/l		一回／週	12以下	8.4	○
	溶解性鉄含有量	mg/l		一回／月	3以下	0.12	○

*1 自主管理値として行政へ届出た値

*2 判定○印は、届出基準値以下(pHについては届出基準の範囲内)であることを示す。

(2) 騒音・悪臭関係

騒音

	測定項目	単位	規制値	測定点	測定頻度	2024年度測定結果 (最小値～最大値)	*3 判定
工業所	騒音	d B	朝・昼・夕 70以下	敷地境界	一回／	朝・昼・夕 44～61	○
			夜 60以下	7地点	3ヶ月	夜 42～59	○
西工場	騒音	d B	朝・昼・夕 70以下	敷地境界	一回／	朝・昼・夕 46～55	○
			夜 60以下	3地点	3ヶ月	夜 48～54	○

*3 判定 ○印は規制値以下であることを示す。

悪臭

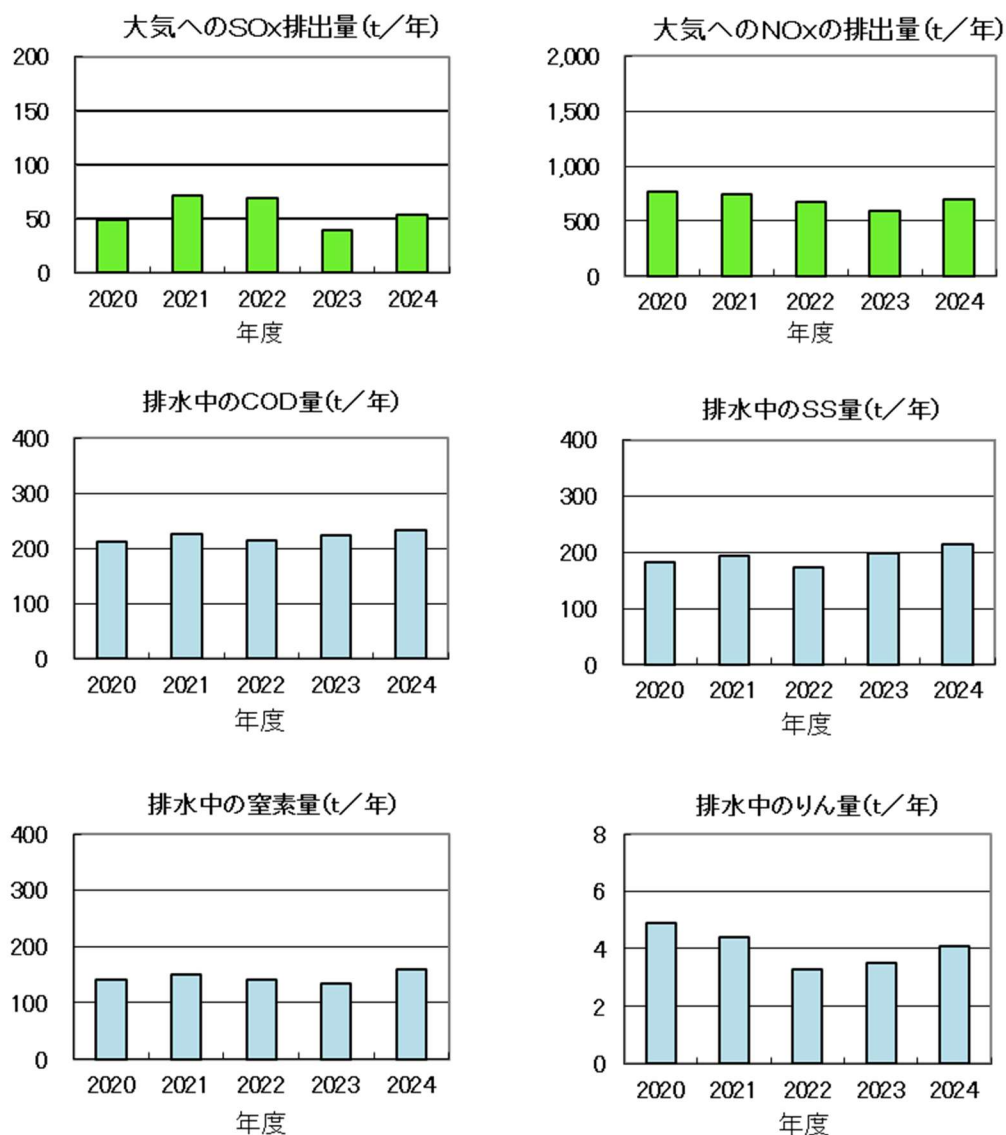
	測定項目	単位	規制値	測定点	測定頻度	2024年度測定結果 *4	*5 判定
工業所	アンモニア	ppm	5以下	敷地境界	一回／	ND	○
	硫化水素		0.2以下	4地点	3ヶ月	ND	○
	トリメチルアミン		0.07以下			ND	○
	アセトアルデヒド		0.5以下			ND	○
	スチレン		2以下			ND	○
西工場	アンモニア	ppm	5以下	敷地境界	一回／	ND	○
	硫化水素		0.2以下	3地点	3ヶ月	ND	○
	トリメチルアミン		0.07以下			ND	○

*4 NDは、検出下限(アンモニア:0.08、硫化水素:0.005、トリメチルアミン:0.002、アセトアルデヒド:0.02、スチレン:0.02)以下を示す。

*5 判定 ○印は規制値以下であることを示す。

(3) 環境負荷量と汚染防止(大気汚染防止、水質汚濁防止)

大気への SO_x (硫黄酸化物) 及び NO_x (窒素酸化物) の排出量、工場排水中の COD (化学的酸素要求量)、SS (浮遊物質)、窒素及びりん (リン) の排出量について実績を管理しています。過去 5 年間の排出量推移は以下のとおりです。



【用語解説】

SO_x : 石炭などの化石燃料を燃やす際、燃料中の硫黄と酸素が結びついて発生する。気管支炎や喘息などの原因になると言われている。

NO_x : 燃料を燃やす際、燃料・空気中の窒素と酸素が結びついて発生する。喉、気管、肺など呼吸器に影響を与えるとされている。

COD: 水中の主に有機物による汚れを表す指標

SS : 水中の懸濁物質 (濁り) を表す指標

5. 化学物質の適正管理と排出量低減

大気・水質の汚染防止、人や環境に有害な化学物質の適正な管理と排出量の削減に取り組み、大気汚染防止法、水質汚濁防止法の規制値や自治体との協定値を遵守し、生産活動を行っています。

(1) 化学物質排出量の適正管理

化学物質排出把握管理促進法（PRTR 法）に基づき、対象化学物質の排出・移動量を把握し、管理の改善・強化を図っています。化学物質排出把握管理促進法（PRTR 法）の対象 515 物質のうち、2024 年度届出対象物質は 48 物質（2023 年度：49 物質）でした。

以下の表に、排出量の多い 10 物質の物質名、排出量^{*1}、移動量^{*2}、その他の届出物質の排出量合計、移動量合計、及び届出物質の総計^{*3}を示します。

2024年度 高砂工業所の化学物質排出把握管理促進法（PRTR法）対象化学物質の排出量・移動量（kg／年）

管理番号	物質名称	排出量 ^{*1}			移動量 ^{*2}
		大気への排出量	公共用水域への排出量	合計	
排出量の多い10物質	598 塩素酸並びにそのカリウム塩及びナトリウム塩	0	120,000	120,000	0
	392 ヘキサン	19,000	0	19,000	130,000
	94 クロロエチレン（別名塩化ビニル）	9,700	560	10,260	0
	595 エチレンジアミン四酢酸並びにそのカリウム塩及びナトリウム塩	0	8,800	8,800	3,400
	275 ドデシル硫酸ナトリウム	0	8,500	8,500	0
	420 メタクリル酸メチル	5,300	37	5,337	1
	134 酢酸ビニル	4,900	310	5,210	0
	157 1, 2-ジクロロエタン	3,800	160	3,960	0
	7 アクリル酸ブチル	3,900	1	3,901	0
	674 テトラヒドロフラン	2,600	0	2,600	2,500
小計		49,200	138,368	187,568	135,901
その他の物質の合計		10,624	5,150	15,774	21,085
届出物質の総計 ^{*3}		59,824	143,518	203,342	156,986

*¹ 排出量：イ. 大気への排出、ロ. 公共用水域への排出、ハ. 当該事業所における土壌への排出（ニ以外）、ニ. 当該事業所における埋立処分の合計量を表しています。

※ハ. 当該事業所における土壌への排出及びニ. 当該事業所における埋立処分については、全物質実績 0 の為、記載していません。

*² 移動量：イ. 下水道への移動、ロ. 当該事業所の外への移動（イ以外）の合計量を表しています。

*³ 届出物質の総計：四捨五入の関係で合致しない箇所があります。

(2) 有害大気汚染物質排出量 自主削減計画

1997 年度から有害大気汚染物質の重点 6 物質（クロロエチレン、1,2-ジクロロエタン、クロロホルム、アクリロニトリル、1,3-ブタジエン、ジクロロメタン）について自主的に排出量削減計画を策定しその達成に取り組んでいます。

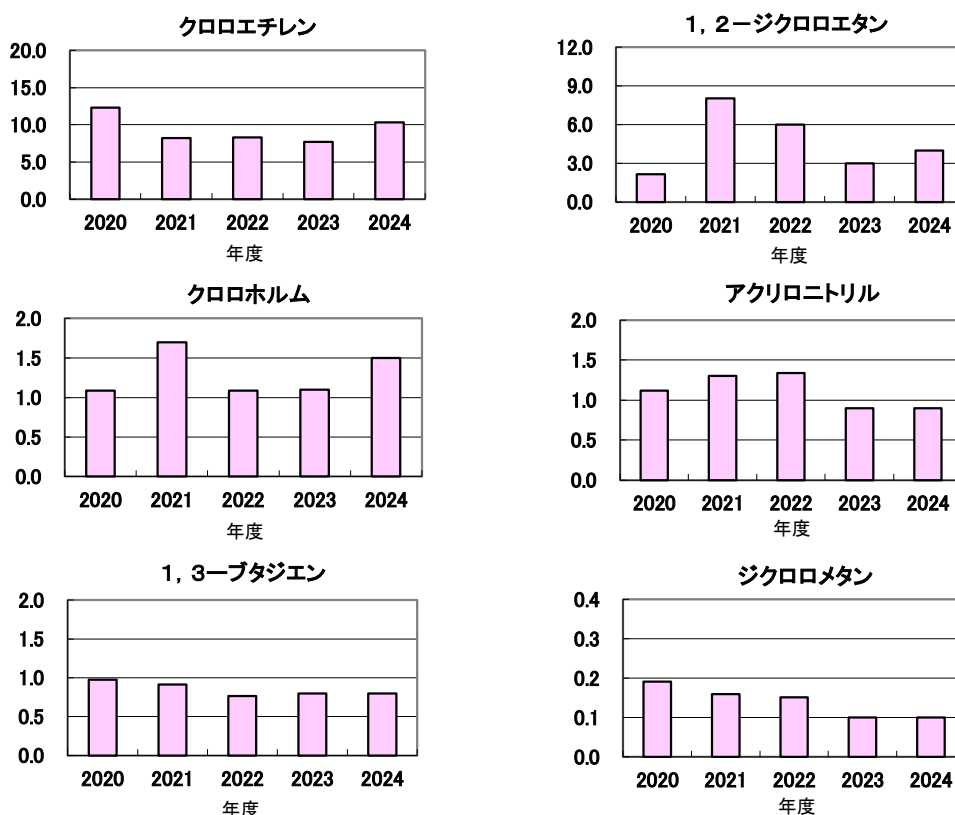
自主削減計画と実績値（t／年）

物質名	2024 目標	実績	物質名	2024 目標	実績
クロロエチレン	7.7	10.3	1,2-ジクロロエタン	3.6	4.0
クロロホルム	1.1	1.5	アクリロニトリル	1.2	0.9
1,3-ブタジエン	0.9	0.8	ジクロロメタン	0.2	0.1

※実績値は、大気及び公共用水域への排出量の合計値です。

クロロエチレン、クロロホルム、1,2-ジクロロエタンの目標に対する実績値の増加は、4 月の荒天（雹）で設備を緊急停止したことによるものです。

有害大気汚染物質の重点 6 物質排出推移（t／年）

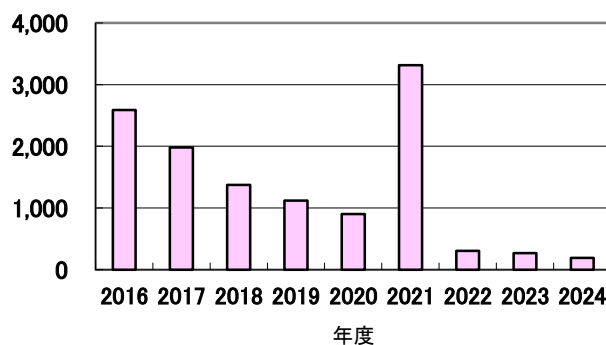


(3) フロン排出量削減対策

フロン排出抑制法の施行（2015 年 4 月）以降、高砂工業所ではフロン排出量の削減に取り組んでいます。具体的には、業務用の空調機器及び冷凍冷蔵機（約 2,000 台）について、法定点検のほか自主的にフロン漏洩検知器で点検しています。

経年化が進む機器は計画的に更新を行い、近年、漏洩量は大幅に低減しています。

CO₂換算フロン漏洩量(t／年)

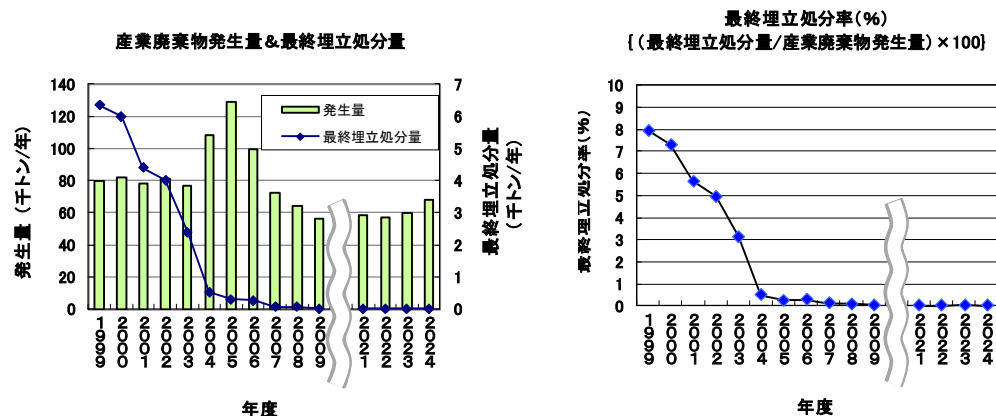


※2021 年度は大型機器一台の不具合により排出量が増加しました。該当機器についてはノンフロン機器に更新し、2022 年度以降は大幅に低減しています。

6. 産業廃棄物の管理

産業廃棄物のセメント原料や肥料への再資源化などを推進し、2004 年度よりゼロエミッション*¹を継続しています。廃棄物の削減は、省資源化、コスト削減、排出 CO₂削減などの地球環境維持向上につながることから、今後も廃棄物発生量の削減と再資源化を推進していきます。

*¹ゼロエミッション：当社では、「最終埋立処分量を産業廃棄物発生量の 0.5%未満にすること」と定義しています



7. 環境会計

環境保全コストは、環境保全活動の妥当性を把握・評価するための指標であり、継続して効果的な環境改善を進めていく上で重要な指標と考えています。2024 年度の環境会計は以下のとおりです。

環境保全コスト		2024年度実績	
分 類	主な取り組み内容	投資額	費用額
(1) 事業エリア内コスト			
①公害防止コスト	大気、水質の公害防止対策	1,086.3	2,722.3
②資源循環コスト	廃棄物の処理、リサイクル、減量化	49.0	1,516.2
(2) 上・下流コスト	製品等のリサイクル・回収・処理	0	0
(3) 管理活動コスト	社員への環境教育、環境負荷の監視、測定等	0	179.7
(4) 社会活動コスト	緑化、景観保護活動、環境情報公開等	0	57.4
(5) 環境損傷コスト	環境保全の賦課金（SOx賦課金）	0	4.5
合計		1,135.3	4,480.1

8. 労働安全衛生・保安防災

【防災訓練】

高砂工業所では、日々防災力の向上に努めながら定期的な訓練をし、技術の向上を図っています。

また、毎年高砂市消防本部の指導を頂きながら総合防災訓練を行い、万が一の事故の場合でも、その影響を最小限に止めるように訓練をしています。



【消火技能向上訓練】

高砂工業所では、所員の初期消火技能向上のため、消火栓操法競技会を実施しています。

また、自衛消防隊員の消防車機関操作の迅速性・正確性・安全性を高めるため、毎年、総務省主催の自衛消防コンテストに出場しています。



9. 地域とのコミュニケーション

【環境月間地域清掃活動】

6月5日は、環境基本法で「環境の日」と定められており、環境省では1991年度から6月の1ヶ月間を「環境月間」とし、全国各地において環境保全の様々な取り組みが実施されています。

高砂工業所では、工業所周辺の環境整備ときれいな街づくりを目的とし、高砂工業所の外周道路や三角地帯、高砂駅南側のグリーンロード、高砂神社周辺の清掃を実施しました。環境を維持するために、日頃から環境に対する意識を高め、ごみのない街づくりを目指して、この活動を継続しています。



【各種イベント開催】

高砂工業所では、地域活動の一環として、近隣の小学校や保育園、幼稚園、福祉関係施設より、生徒の皆さんを招待して、各学年にあった各種イベントを企画、開催しています。

＜さつま芋の収穫＞

10月に小学校低学年、保育園、幼稚園、福祉施設の生徒の皆さん、約200名を招待し、さつま芋を収穫しました。実際に土に触れ、収穫するという農業体験を共同することにより、観察力を高め、仲間と協力して一つの事をやり遂げる経験をして欲しいという思いで2009年から毎年継続して開催しています。

子どもたちの歓声とひたむきな姿に活動の意義を実感し、今後も継続して地域社会との交流を深めていきます。



＜ケーキ教室（夢化学）＞

近隣の小学校中学年の生徒の皆さんを招待し、高砂工業所で作られている製品を実際に使用したケーキ教室を開催しました。子どもたちは、材料を前にして自分の作りたいケーキのレイアウトを考え、思い思いのケーキを作っていました。この体験を通して、高砂工業所では日常生活に密着したものも作られていることを理解してもらい、子どもたちが将来の夢を描いてくれる手助けになればという思いで毎年開催しています。



＜環境学習＞

高砂 STEAM 教育の推進として、高砂市内の小学校 5 校を巡回し、約 680 名の生徒の皆さんに対して環境学習出張授業を実施しました。

高砂 STEAM 教育とは、科学(Science)、技術(Technology)、工学(Engineering)、芸術・教養(Arts)、数学(Mathematics)の 5 つの分野を融合させた高砂市が推進している教育です。子どもの好奇心やアイデアを起点に、自ら課題を発見し、問題を解決していく能力や探究心を育むことを目的としており、実際に環境学習を受けた子どもたちの反応は、「海の環境についてもっと知りたい」等、環境問題に対する関心や意識が高く、弊社の Green Planet 製品についても関心を持っていることが伝わりました。未来を担う子どもたちのために本取り組みを今後も継続したいと考えています。



【トライやる・ウィーク】

11月11日から11月15日までの5日間、「トライやる・ウィーク」の活動として、高砂市立高砂中学校の2年生4名が高砂工業所で職場体験をしました。「トライやる・ウィーク」は、中学生が地元企業での様々な体験活動を通じて、働くことの意義、コミュニケーション能力の向上、社会の一員としての自覚を高めることを目的とした兵庫県が推進する教育活動です。

高砂工業所では、普段体験したことのない様々な業務を体験することで、生徒一人一人が自分の将来を考えるきっかけとなるよう支援しています。



消火活動



安全教育

【カネカみらいの森づくり】

カネカ高砂工業所の水源である加古川の上流に位置する多可郡多可町の柳山寺ふるさとの森15haの一面を「カネカみらいの森」と命名し、2012年から県・町・関係機関団体や地元の方と協働して森林整備・保全及び交流活動を行い、「森の緑で心の豊かさを」を合言葉に人と森との共生、動植物の多様性維持、きれいな水を播磨灘に注ぎ豊かな海づくりを目指すための活動を実施しています。新型コロナウイルス感染症拡大以降、4年ぶりにより活動再開し、6月と11月の年2回活動を実施しました。11月には従業員とその家族により森林伐採を行い、ベンチを作成し、なごみの里山都へ寄贈しました。



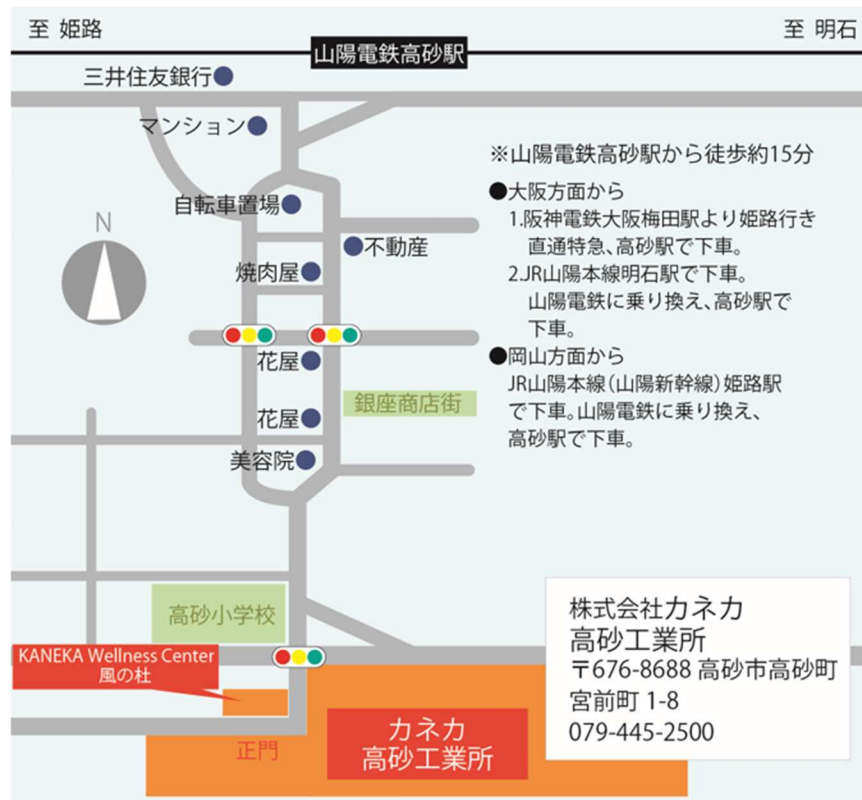
10. 輸送時の化学物質管理と教育訓練

高砂工業所では、危険物・高圧ガス・毒劇物を数多く取り扱っています。万が一の事故で原料や製品の漏洩や火災が発生した場合を想定し、対策を実施しています。

具体的には、輸送時に事故が起こった場合の対処方法などを記したイエローカードを作り、輸送会社の乗務員にその内容を教育し、常時携帯を義務付けています。また、毎年、乗務員への教育状況を調査し、輸送会社に対し教育の周知徹底を図っています。

株式会社力ネカ 高砂工業所 案内図

高砂工業所



交通手段

●大阪方面から

- ① 阪神電鉄大阪梅田駅より姫路行き直通特急、高砂駅で下車
- ② JR 山陽本線明石駅で下車
山陽電鉄に乗り換え、高砂駅で下車

●岡山方面から JR 山陽本線(山陽新幹線)姫路駅で下車

- 山陽電鉄に乗り換え、高砂駅で下車
※山陽電鉄高砂駅から徒歩約 10 分

株式会社 **力ネカ**

高砂工業所

〒676-8688

兵庫県高砂市高砂町宮前町 1-8

TEL : 050-3181-4436 (平日 9:00~17:00)

FAX : 079-445-2366

問い合わせ先

総務グループ